

子どもの特性「成長段階」を知る

子どもの「なぜそうなるか」を考える上で、子どもの成長・発達段階を知ることが重要です。年齢や発達に応じて、子どもがどう感じているか？考えているか？成長に必要な過程であることを理解してゆっくりと向き合ってみましょう。また、子どもの成長には個人差があるので待つ姿勢であせらずに受けとめていきましょう。

0～1歳6か月頃

乳児期



乳児期は人を信頼する感性や感覚が豊かに育つ時期です。赤ちゃんが望んだことをしてもらえることで人を信頼する安心感を持つ第1歩となります。

泣くことで自分の要求を表現し、満たされることで自分を取り巻く周囲の人や世界に対する信頼と自分に対する基本的な自信の感情が育まれてきます。

1歳6か月頃～3歳

幼児期

(前期)



ことばを話したり歩いたりできるようになり、着替えや排泄・食事など自分でできることが増え、自律性が養われる時期です。周りの世界を理解し母の元から離れることに不安を覚えたりする時期でもあります。

この時期に大切なことは子どもが感じている「自分でやってみたい」等の気持ちを尊重し、自信をつけさせてあげることです。

3～5歳

幼児期

(後期)



脳が発達し、「なんでだろう」と好奇心がたくさん出てきて、遊びを通し新しいものを作り出して友達との付き合いを学ぶ時期です。水を触ったり飲んだり、坂をのぼったりすべて転んだり、洋服を汚したりとすることで、物ごとを理解し考え判断する力を身につけていきます。

またルールについても理解することができる時期となります。ここではこうするんだよということを繰り返し教え伝えることで、できることやルールが徐々に身につけていきます。

6～12歳

学童期

(児童期)



小学生の時期になると親から離れて過ごす時間も増え、子どもの世界は広がっていきます。この時期には友達との遊びや関わりを通して社会的ルールや勤勉性を学んでいくことが大切となります。友達と多くのことを学び合う中で人間関係やコミュニケーションがより成熟し発達していきます。子どもの生まれ持った気質の違いを理解し、ありのままの子どもを安心感を持って支えましょう。

13歳～18歳

青年期

(思春期)



体つきも大きく変化し、自立心が大きくなります。「自分とはどんな人間なのか」「自分は将来どんなことをやりたいのか」「生きている意味はなんだろうか」といった問題について模索し、揺るぎない自分を確立していく時期です。

体の変化と共に心が不安定になり、親に対して反抗的な態度をとることもありますが、親から心理的に自立していくために必要な過程となります。子どもの良いところをほめ、相談事に寄り添い、子どもの自立へ向けて後押しをしていきましょう。

参考文献：

・子どもへのまなざし(福音館書店) 佐々木正美著

・親力をのばす0歳から18歳までの子育てガイド ポジティブ・ディスプリンのすすめ(明石書店) ジョーン・E・デュラント著